

表3. 西条盆地のコウホネ類

タイプ	柱頭盤の色	葯と花糸の長さ	池の数
オグラコウホネ	赤	葯 < 花糸	35
コウホネ	黄	葯 = 花糸	4
コウホネ	赤	葯 = 花糸	1
コウホネ	赤	葯 < 花糸	2

コウホネは柱頭盤が赤いので、実際はこのタイプのものが各地にかなりあるのではないかと著者は考えている。

西条盆地のコウホネ類については、分布・生態をさらに詳しく調査し、形態についても検討するつもりである。

引用文献

下田路子. 1983. 広島大学統合移転地およびその周辺

部に分布するため池の水草. 植物地理・分類研究, 31: 46-57.

—— (Shimoda, M). 1984. Macrophytic communities and their significance as indicators of water quality in two ponds in the Saijo basin, Hiroshima Prefecture, Japan. *Hikobia*, 9: 1-14.

——. 1985. Phytosociological studies on the vegetation of irrigation ponds in the Saijo basin, Hiroshima Prefecture, Japan. *J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 2*, 19: 237-297.

——・鈴木兵二. 1979. 西条盆地(広島県)の湿地植生. 「日本の植生と景観」(宮脇昭・奥田重俊編), 315-323. 横浜植生学会, 横浜.

塚本洋太郎. 1964. 原色園芸植物図鑑Ⅲ. 179 pp. 保育社.

知多半島にフサジュンサイ野生化

中井三従美

北アメリカ東南部原産で昭和の初期に日本に帰化、現在各地の池や用水路で野生化しているフサジュンサイ (*Cabomba caroliniana* A. Gray) を知多半島のため池で確認した。これまで半島内では生育確認されていないことから一応紹介しておく。



常滑市小鈴谷のフサジュンサイ (S62. 7. 8 撮影)

今年(1987)1月3日、知多市内の籠池へ子供とルアー釣りに行った際、越冬葉を採集して来た。翌日、常滑市内のため池を調査し、小鈴谷地区荒子の小さなため池に同種の群生を確認した。

7月8日には上記2ヶ所の池を調査した。

籠池は、満水状態で面積0.7 ha、貯水量35,600 m³、最大水深約6 mで、中央部にはヒシがあり、フサジュンサイは岸辺にわずか漂着しているだけであった。

荒子のため池は300 m²、水深1.5 mほどで、まわりにはヨシがあり、水面全体にフサジュンサイの花が見られた。